

講演要旨

① 「アマゾン先住民の文化と暮らし」ーシングー国立公園及びその周辺地域の開発についてー

NPO 法人 熱帯森林保護団体代表 南 研 子

アマゾンの熱帯林、及びその地に暮らすインディオと呼ばれる先住民の現状は、開発による熱帯林の破壊に大きく影響し、有史以前より続く独自の文化継承も危ぶまれている。熱帯林減少の原因は、先進国に暮らす人間の消費と深い関係にあり、遠いアマゾンの熱帯林消滅危機は、日本人の生活と密着している。この事実について、今年 7 月に行なった 29 回目のアマゾン視察に基づき、その最新の実情を映像をまじえ報告する。

② 「ネパール・ランタンプロジェクト、OCUAC」ーランタン谷と峰々に魅せられて、夢の途中ー

大阪市立大学山岳会、2015 年ランタン・リ (7205m) 登山隊 兵 頭 渉

大阪市立大はランタン谷とは縁が深く、日本隊最初のヒマラヤ遭難は当山岳会の [ランタン・リルン] に始まっている。ここ 5 年間、『市大ランタン Project』としてランタン谷へ登山隊を派遣してきた。2015 年は、最奥の「ランタン・リ」登山中に今回の地震に遭遇した。プロジェクトの立ち上げ、5 年間の活動、2015 年ランタン・リ登山隊の活動、そして 2015 年 4 月 25 日に発生したネパール大地震の惨状等を紹介する。ネパール、ランタン谷の再生と復興を祈って！ 再びネパール、ランタン谷へ！

③ 「ブラジルの茶園・茶産業」ー日系移民の開拓の歴史ー

ティ・リテラシ、茶道家、お茶で南の国々とつながる会 代表 上原美奈子

現在、約 160 万人の日系人が住むといわれているブラジルには、Japones Garantido という言葉がある。「日本人であれば信頼できる、信用するに値する」という意味だそうだ。日系移民が築いたこの言葉の重みを、珈琲の国ブラジルに一大紅茶産業を打ち立てた岡本寅蔵氏の歴史とともに考えてみたい。国や企業の事業ではない、たった一人の移民の「拓魂」による茶業の発展の歴史を紹介する。

④ 「アンデス山脈の家畜と祖先種、そしてジャガイモ」

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科准教授 大山 修一

アンデス山脈には有名なラクダ科の家畜、アルパカがいる。この祖先野生種と考えられているのがビクーニャである。ビクーニャにはおもしろい習性があり、そのひとつがため糞をすることである。そして、この糞場に生育するのがジャガイモの祖先野生種のひとつ、アカウレである。ジャガイモの起源地はアンデス山脈のチチカカ湖畔とされてきたが、これまで具体的な場所の報告はなかった。どうも、ラクダ科動物の糞場がジャガイモの起源地だったのではないかという報告をする。

⑤ 「南米・パタゴニア氷原ー30 余年の調査の軌跡」

筑波大学 名誉教授 安仁屋政武

パタゴニアは、南米の南端に位置する広大な地域（日本の 2 倍強）で、チリとアルゼンチンにまたがっています。ここ（チリの太平洋岸）に、日本はもとより世界でもほとんど知られていない、世界でも有数の規模を持つパタゴニア氷原があります。講演者はこの地域の氷河について 1983 年からいろいろな調査を行ってきました。今回は、調査地への旅の珍しい写真とエピソード・苦労などを紹介しながら、これらの調査について紹介します。

以 上